昭和53年（1978）1月1日

No. 178

紀　元　2638年
西　暦　1978年

館報 大豊

昭和53年 元旦

つちのえ　うま
戊　午

文教のまちづくり

大杉中学校並びに町民グランド用地造成工事は、昭和51年1月13日着工、総事業費2億1千380万3千円をもって52年10月28日完成した。総面積2万3,100平方メートル、うち9,400平方メートル（左方）が中学校予定地、1万3,700平方メートル（右方）が町民グランド予定地である。

昭和53年度は、鉄筋コンクリート3階建、延2,081平方メートルの校舎建築が予定されている。（体育館1,288平方メートルは昭和54年度予定）

英知と創意工夫で 難局の打開を

大豊町長　門田盛一郎

明けましておめでとうございます。昨年中は町民の皆様方にはひとかたならぬ御協力を頂きまして有難うございました。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

議会はじめ町民の皆様の絶大な御指導御鞭撻を仰ぎながら町勢の進展に努め、『明るく活力ある町づくり』が強力に推進されつつありますことは、大きなよろこびであります。

然しながら、景気は依然として低迷を続け、円高と不況は一層厳しさを増すものと予想されますが、今年こそ町民一丸となって行政水準の向上を目指す年であろうかと存じます。そのため、厳しい財政状況下ではありますが、健全財政を堅持しながら行政需要を最大限に満たしていこうとする気運を高め、議会を中心とする町民各位の英知と創意工夫による難局打開策こそ、新しい年明けの課題であろうかと存ずる次第であります。

これが具体的実践の為には、何と申しましても町内で芽生えたコミュニケーションを大切にしながら、町民のひとりひとりが愛郷精神を高め、町政に関心をお寄せいただかなければ理想の町づくりは達成できるものではありません。懸案の企業誘致も進出第一号として近く皆様に発表できる段階にきましたし、四国横断自動車道建設の本格化、大杉中学校改築工事着手等積年の重要事項が明るい見通しになってきてはいるものの、反面減反政策の強化、木材価格の低迷等農林業をとりまく諸情勢は益々厳しいものとなりつつあります。少しでもよりよい、住みよい町づくりに邁進するよう、私ども行政を預かる者としては駑馬にむち打ち、全力を尽くして住民各位の所得と福祉向上に一層の努力をはらう決意でありますので、よろしく御指導御支援を賜わりますようお願い致します。

年頭に当り、お礼と所感の一端を申し上げ町民各位の御多幸をお祈り致しまして御挨拶と致します。

最良の年であるように 町躍進へ努力

大豊町議会議長　岡崎啓

町民の皆さん、明けましておめでとうございます。ここに希望の新春を迎えるにあたり、皆さんの御清福と御繁栄を心からお祈り致します。

私は昨年六月に再び議長に選任されましたが、その後議会の円満な運営と町政の伸展を第一義として誠心誠意努力してまいりました。お蔭様をもちまして大過なく越年することができました。これはひとえに皆様の御支援と御協力の賜物であり、心から感謝の意を表します。

顧りみますと、大豊村発足以来二十二年余を過ぎましたが、全町民の愛郷精神が極めて旺盛なことと、行政運営のよろしきを得たおかげで石油危機以来の財政難にもかかわらず、諸事多難なうちにも逐次懸案事項の解決をみましたことは誠に御同慶に堪えません、御承知のように、最近の国際情勢は非常に厳しいものがあります。

今後私達は、町政運営に当っては常に国際的視野に立って、国及び県の施策と相まって町財政の範囲内において最大の効果をあげるよう努力しなければならないと考えております。

昭和五十三年こそは、町の躍進の年として町政全般にわたり内容充実のため最大の努力を傾注する所存でありますので、何卒倍旧の御指導と御鞭撻をお願い申し上げます。

明けゆく昭和五十三年が町民の皆様と共に最良の年でありますように、心からお祈り致しまして年頭の御挨拶と致します。

成人の日には 必ず日の丸を

百十五名がおとなの仲間入り

ことし成人式を迎える方は、昭和三十二年一月十六日から翌三十三年一月十五日までの間に生まれた男女です。

本町では男五十三名、女六十二名、計百十五名の方々がおとなの仲間入りをします。成人の日（一月十五日）は、我が国の祝日であり、元旦に次いでことし二回目の国旗掲揚日です。成人式に一般の方々が全員出席して祝い励ますことは不可能ですが、たった一つ、家庭にいながらにして、これら成人となられた方々を祝い励ますことのできる方法があります。それは各戸に『日の丸』を掲げることです。

若者に愛郷の精神を教え町民の心を一つにするために、ことしこそ祝祭日には全戸に『日の丸』をかかげましょう。『日の丸』は戦争につながるものではなく世界の国々が認めている日本の国旗です。本県でもおそらく日の丸を掲げる運動が提唱されると思われるので、大豊町はこれに先がけて必ず手づくりでもよい成人式から祝祭日には必ず日の丸を掲げるよう習慣づけましょう。式典は農工センターで十時三十分からはじめます。

嶺北杉電々局の 美挙二題

嶺北杉電報電話局（野村大蔵局長職員六〇名）では電話サービス事業の一環として昨夏杉地区盆踊り当日電話器を特設して無料利用に供したが、その際電話利用者より『チャリティバック』に寄せられた醵金に全職員からの浄財を加えて金一万一千二百八十二円を八月十七日野村局長、西村業務課長の両氏が役場を訪れ、社会福祉向上資金の一部にと町社会福祉協議会へ寄贈された。社教では早速鎌倉登会長より感謝状を贈呈した。

また『電報電話記念日（十一月二十三日）』に、同局職員に対し当局より贈られてきた記念品料を全員の申し合せにより（土佐町在勤者五名を含む）金三万五百円町社教へ寄贈した。役場及び社協関係者は同局職員のこの美挙に対し深く感激し、将来住民福祉向上のために最も有効に役立てたいと云っている。

ふるさとの民俗遺産を守ろう
一万点収集に全力を

大豊町文化財調査委員長　都築建康

私のふるさと大豊町ではいま私達の祖先が血と汗を流して、山間の生活の中でまた山や畑での生産のために改良と工夫を重ねて使われた手作りの民俗資料、いわゆる民具の一万点を目ざして、町の民俗資料館に集めています。

古物と一口に云いますがこれは私達の祖先から伝わった町民の魂のふるさとであり、躍進を続けるための心をふるいたたせ、明日の社会の建設につながる精神文化のもとになるものです。

去る十月二十二日、定福寺ユース・ホステルで会があり、丁度幡多、檮原等に招かれて来高中の前東京武蔵野美術大学教授で退任後『日本観光文化研究所』の所長をされている文学博士宮本常一先生が来町され、この会で色々貴重なお話を聞くことができました。

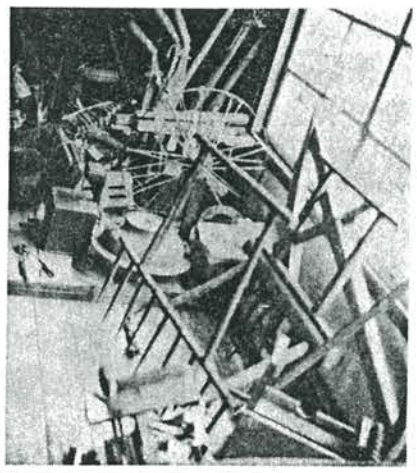
先生は昨年も一度来館されたそうですが、今回は町民の皆様の御協力によって、続々と集まりつつある民具を見て『山の生活』をこれほど表現できる大豊はすばらしいと驚いておられました。

最近は、民芸品ブームというか古物屋が町や村に買いに来ます。先生の申すには『安い高いにかかわらず一度彼等の手に渡ると、その品はどこの何方の手に渡るかわからない、折角我が家に伝わってきた祖先の匂いの残っている品だから民俗資料館に出しておくと、何時でも手に触れて親しむことができる。それが民俗資料館の有難いところではないか』と云われました。皆さんも同感だと思います。

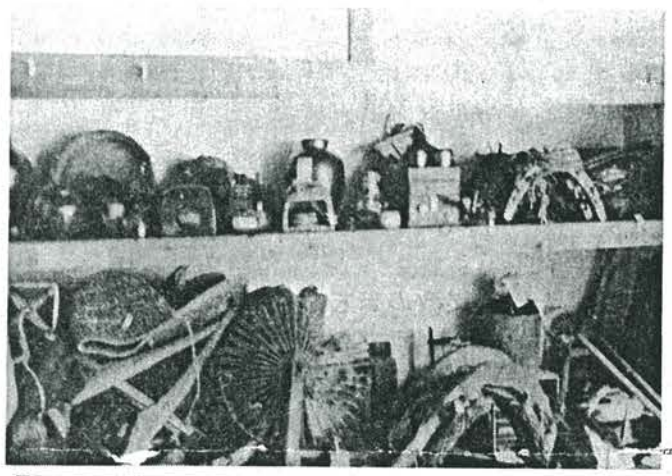
私も高知に出るときいろいろ分整理してきたのですが、家の記念にとっておいた太布(たふ)の布とんの表地及び糸、カワラケ、燈芯、木臍用の椀、杣、木挽用の打ちカスガイ、手斧、マイ挽類、神様用の木地のゴキ、蜂の巣の繭カギ（ピンセット）とんなものを持ってゆきました。（私事で恐縮ですが）

今一つ感心した事は、先生一行が檮原から定福寺に着いたのが夕方の五時過ぎでしたが、早速民具館に入れられて太布等の織物類を手に取られ、汚れがひどいのを二三見つけて同行の香月夫人を呼び『君これを今晩早速洗って干して置き給え』と命じました。香月夫人は檮原から六時間のバスや汽車で疲れていたと思うのに嫌な顔もせず『ハイ』と答えてすぐに洗って干しました、その道を勉強している人とは云え本当に頭が下る思いでした。

皆さんもご存知のように大豊町は県下に誇る有名な文化財が沢山あります。寺内の国宝薬師堂（内部三体の仏像は国の重要文化財）同じく国の重要文化財立川の御殿、県文化財定福寺九体の仏像、特別天然記念物日本一の大杉、町の無形文化財岩原永渕神楽等があります。その上に今度一万点達成が実現したら、先人の文化遺産が大豊町ほどそろうところは他にないと信じます。どうか皆さん頑張って是非共実現しようではありませんか。（高知市旭駅前町在住）



続々集まる民具（東豊永小の仮置場）



集まった貴重な民具

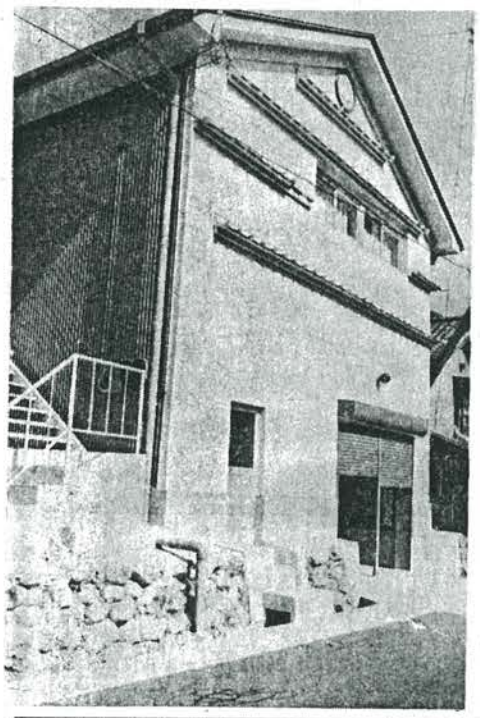
大田口地区公民館
改築落成

町立大田口地区公民館及び大田口消防団大田口部屯所の改築工事は、昨年七月二十三日起工、十月二十四日竣工、十一月十九日に落成式を行った。

この公民館は、昭和三十四年から三回にわたり大田口校下民を対象とする地区公民館建設について、同和産業株式会社大田口倉庫を地区で確保すべく努力しているので、これに対し公民館としての施設改造及び整備について助成措置を講ぜられたいとの陳情があり、三十六年六月議会で採択、地区公民館として改造を加えて現在に至ったが、最近破損がひどく使用禁止となっていたもの。

設計管理、永野建築設計事務所、工事施行北村建築工業株式会社により、中二階を改造し屋根を亜鉛瓦葺とし一階の公民館部分は調理室（三〇平方㍍）及び一〇畳和室、床及び押入れ消防屯所部分は公民館とコンクリート壁で遮断し、車庫、倉庫、詰所、一〇畳和室、床、押入れなど、二階は全部公民館で、和室一六畳、ステージ三〇平方㍍、集会所九〇平方㍍及び物置、中二階に便所ををとっている。延面積は公民館が二五一・一八平方㍍と消防屯所が九〇平方㍍。

事業費は公民館二千四百十五万三千円（うち地元負担二百六十万円）。消防屯所百二十四万七千円（うち地元負担百万円）合計一千五百四十万円となっている。（写真は大田口地区公民館＝下のシャッターは消防屯所）



岩原部落に
待望の集会所
旧小学校跡地に

岩原部落に旧校舎とりこわしや骨材の運搬等、部落民ら約百五十人役の奉仕作業で汗を流した。

集落整備事業補助金二百四十万円、部落負担金二百十六万円（うち長男会百万円）、地元出身者の寄附八十万円等が主な財源内訳で総事業費五百二十八万一千円、小さいながらも、ステージの緞帳は電動式、十二畳の部屋二間（ホール）調理室、床、便所、控室等となっており、今後この集会所を利用しての公民館活動が期待される。

七名）及び同部落集会所建築委員会などが中心となり集会所が出来た。

今まで当地区には公民館がなく種々の不便をかこってきたが、岩原小学校跡地に木造平屋建亜鉛瓦葺一〇三・三平方㍍（三一・三坪）の集会所が完成し、五十二年六月二十日地元をあげて盛大な落成式を行った。

昭和五十年四月一日に発足した岩原部落長男会（十

完成した岩原集会所 ↓
（夜は各種会合や優雅な大正琴の調べが流れている）

二〇才になったら
国民年金に加入しましょう

我が国では二〇才以上の人は原則として、みんながどれかの年金制度に加入することになっています。

国民年金は厚生年金、船員保険、各種共済組合などいずれかの年金制度に加入している人や、その配偶者、昼間部の学生を除く二〇才から五十九才までのすべての人が加入する年金制度です。

加入しますと老後の保障ばかりではなく、保険料さえ納めておれば障害者となったときは障害年金が、不幸にして夫を亡くし母子世帯になったときは母子年金が支給されます。このほか遺族になった人に支給される年金として準母子、遺児寡婦年金があります。そして、あなたが六十五才になれば老令年金により老後の生活が守られることになります。

国民年金は、物価スライド（物価上昇年五%以上）ですので年金の目減りすることがありませんから安心です。

保険料は月二、二〇〇円ですが、今年四月から二、七三〇円に引き上げられます。

二〇才になったらすぐ国民年金に加入して保険料を納めましょう。それが自分の生活を守ることになります。加入手続きは役場住民課福祉係又は各支所へ電話でもかまいませんから申し出て下さい。

老令年金と通算老令年金の何れかを受けている人は現況届を出しましょう

国民年金は、各支払期に皆さんが指定した郵便局、銀行で支払われています。この年金を引き続き支払うためには皆さんの現状を知り、年金を受ける条件に該当するかどうか国が確認しなければなりません。このため老令年金を受けている方には『毎年二月十五日』までに『国民年金受給者現況届』を提出していただくことになっています。現況届を提出しなければならない方には、一月中に社会保険庁より用紙が直接受給者に送られてきますので、必要事項を記入し、役場（本庁、各支所）で証明を受け期日までに必ず提出して下さい。二月十五日までに『現況届』の提出がないときは六月期支払分から年金が受けられないことがあります。

尚、昨年の二月十六日以後、年金を受け始めた方は今年の現況届は提出する必要はありません。

また、社会保険庁より『現況届用紙』の送付もありません。国民年金関係について詳しい事を知りたい方は役場福祉係へお問い合せ下さい。

農業委員会委員
選挙人名簿
登載申請について

ことしもまた『大豊町農業委員会委員選挙人名簿』を調製することになりました。議会議員（国、県、市町村）や首長の選挙に用いる一般の選挙人名簿は、住民基本台帳等に基づいて選管で自動的に調製しておりますが、農業委員会委員の選挙人名簿だけは有権者からの申請によって毎年一月一日現在で調製することになっております。

一般の選挙人名簿のように、脱漏しても補正登録ができませんので、登載申請は必ずご提出下さい。

一、有権者

大豊町に住所を有する左に掲げる者で、昭和五十三年三月三十一日現在で満二十才以上の者

・①十才以上の農地につき耕作の業務を営む者。

②前号の者の同居の親族又はその配偶者（年間六十日以上耕作に従事している者）

二、提出方法及び期限

申請用紙は区長さんが配りますので記入して区長さんを通じて一月十日までに選管へ必着するようご提出下さい。

（大豊町選挙管理委員会）

渡辺教育長 全国表彰受賞

教育長渡辺盛男氏は、多年に亘り、教育長の職にあって教育向上に尽くされた功績により、昨年六月三日東京国立教育会館虎の門ホールにおいて、全国町村教育長会長より教育功労者として表彰されました。氏は高知県公立小中学校寄宿舎連絡協議会長、土長南国市町村教育委員会連絡協議会長としても活躍されております。

大杉中学校の交通自治会も受賞

大杉中学校（山崎弘行校長）は、昭和三十五年交通自治会（会長は歴代生徒会長）結成以来、交通安全思想の高揚と交通事故の防止につとめ、交通秩序の確立に尽くされた功績はまことに顕著であり感謝の意を表す、として昨年五月二十六日四国交通安全協会長並びに四国管区警察局長より表彰されました。

勲五等双光旭日章を賜った小島清利さん

大田口の小島清利さん（八二）は、多年にわたる運送業界の功績が認められ昨年十一月三日、『勲五等双光旭日章』を受賞された。

小島さんは、大正十三年貨物自動車運送業を開業、時代の変遷に伴い昭和十六年には報国合同運輸有限会社を創設社長に就任、昭和三十年には現在の大豊運送有限会社を設立、引き続き社長として五十四ケ年にわたり運送業務に専念、県下屈指の運送事業家としてのこんにちを築かれた。この間、二十有余年に亘り社団法人高知県トラック協会理事及び副会長並びに嶺北支部長、昭和四十四年には日本交通安全協会長栄誉章緑十字銅章、昭和四十六年運輸大臣表彰などを受賞している。

公的活動面でも旧西豊永村議会議員、西豊永村助役大豊村教育委員会委員並びに消防団長等の要職を歴任、昭和四十一年には消防団功労者として藍綬褒章を受賞された。また昭和三十八年には簡易裁判所調停委員、家事調停委員、商事司法委員としての功績により、高松高等裁判所長官表彰を受けられるなど行政、司法各界に亘り多大の功績を残された。また、昭和五十年には模範老人として知事表彰を受けている。

祝賀会は門田町長、岡崎議長らが発起人となり、十一月二十四日大田口地区公民館で開かれ約百五十人が参加し、小島さんのご健康と今後のご活躍を祈念し、小島さんをこんにちあらしめた今は亡きご夫人の内助の功をしのび惜しみない賛辞がおくられた。

勲五等双光旭日章を胸に謝辞をのべる小島さん

穴内中へ鉄道記念日に感謝状

穴内中学校（石原正恒校長、生徒数三三名）は、停留所化した穴内駅の清掃美化に汗を流していることが認められ、日本国有鉄道四国総局阿波池田駅長からご協力を頂きお蔭で駅はいつもきれいです。利用する人達からも大変喜ばれており深く感謝の意を表しますとして、感謝状と記念品が贈られました。

感謝状は、十月十四日氏家大杉駅長によって伝達された。石原校長は、今から百六年程前の今日、明治五年十月十四日、新橋（現在の汐留）・横浜（現在の桜木町）間二十九キロに鉄道が開通し、明治天皇ご臨席のもとに鉄道開業式が挙行された記念日であるということとと、この日に受賞した意義をのべて、生徒をはげました。（駅の美化に奉仕する穴内中の生徒たち）

表彰状を手ににこやかな大杉中の生徒たち

自治大臣表彰の栄 町選挙管理委員会と森下書記に

大豊町選挙管理委員会（岡林長盛委員長）は、三月四日自治大臣より表彰された。表彰の理由は、五十一年十二月五日に行われた衆議院議員総選挙にあたり一致協力して選挙の適正な管理及び明るい選挙の推進に努力され、すぐれた成績をあげたというもの。

また、選挙管理委員会書記森下辰雪氏は、昨年七月十日の第十一回参議院議員通常選挙にあたり、よくその職務を全うされその功績は顕著であるとして十月十日、自治大臣より表彰された。

文部大臣表彰の西峰中学校

学校給食優良校として

西峰中学校（中橋強校長生徒数三十七）は、昨年十月二十日全国学校給食優良校として文部大臣から表彰されました。

学校給食は児童生徒の心身の健全な発達と、国民の食生活の改善に寄与することが目的であり、『日常生活における食事について正しい理解と望ましい習慣を養うこと』『学校生活を豊かにし、明るい社交性を養うこと』『食生活の合理化、栄養の改善及び健康の増進を図ること』『食糧の生産配分及び消費について正しい理解に導くこと』などが目標とされています。

西峰中学校は、本町学校給食開始以来五ケ年間に亘りその成績が極めて優秀であり、県下でただ一校表彰となったもの。伝達式は十一月四日県教育委員会体育保健課豊永幸男課長（本町出身）が来庁して中橋校長に渡されました。

日浦部落が知事表彰 64回目の敬老会

十一月二日、日浦部落で第六十四回目の敬老会が開かれた。普通であれば敬老行事は昭和二十六年から『としよりの日』（九月十五日）として始まった筈。老人福祉法が制定され『老人の日』に改められたのが昭和三十八年、そして現在は『敬老の日』。こう考えてみると六十四回目とはすごい記録。昭和三十七年四月三十日大豊村長表彰、五十二年三月一日には中内高知県知事から表彰され、この敬老会席上で門田町長出席のもとに伝達披露された。六十世帯、二百余人のこの部落で六十四回も続けることの出来た背景は何かと考えながら、公民館に足を運んで先ずびっくり。きれいな会場の前机にミルクの空罐を銀紙で包んだ廃物利用の花瓶が置かれ、家庭から持ち寄ったとりどりの花が投げ入れてあり、エプロンがけの婦人の中に男性も交って立ち働いていた。大正三年以来一年も欠かすことなく続けぬいてきたのは、この花瓶にみられるように、古いものを大切にし、郷土を愛する自治と連帯のきずなで結ばれた部落ぐるみの敬老精神があったからではなかろうか。

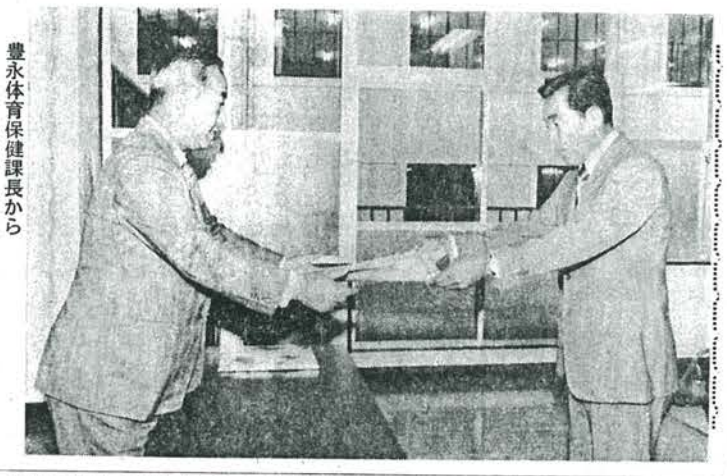
毎年七十才になった者には、内側に（敬）、まわりに『第何回』と書いた木杯を敬老会の日に贈り、今では殆んどの家庭にこの木杯が保存されているという。

この日祝福を受ける老人は三十三名、その中の一人秋山伝吉さん（七七才）はこの敬老会について次のように話してくれた。

『なにせ古い話しぞよ、わしが十五の時（大正三年）から一年も休まずにやっている、青年が中心で、当時は東本山村日浦青年会と云うて鎌倉熊太郎さんが団長、その時の村長は門脇恒美さんじゃった。その後も青年団が中心で、公民館が出来るまでは毎年一回氏神の例祭か、そのあくる日に神社の拝殿に七十才以上の者を招いて慰労し記念品を贈って祝いよったが、今じゃこうして、わしらが祝うてもらう方になった。まことに有難いことじゃ。当時敬老会の費用は確か二十七円と記憶しちょるが、戦時中は若い者が減って青年団員の年令を二十五才から三十才まで延ばしてやったこともあり、終戦前後の食糧難時代には、菜の葉の巻寿司など作って、何とか休まず今日までやってきたが、いまにして思えばまっこと感無量じゃ』と。

約十年程前から部落主催となり、料理や演芸等は婦人会と青年団がやっている。敬老意識の稀薄化を憂うる現代社会にあって、日浦部落の皆さんはこれからも幾久しくこの活動を続けていきたいと話していた。

（区長小笠原重典さん、婦人会長崎田良子さん）


豊永体育保健課長から表彰状の伝達を受ける中橋校長

表彰状と老人を囲んでよろこびの日浦部落の皆さん

新年の話題

初夢

元旦の夜から二日朝にかけて見る夢が初夢。昔は娯楽の種類も少なく形式を重んずる時代でしたから、色々ないい伝えや習慣がそれぞれの家に伝わっていて、しっとりと根づいていたものと思われます。初夢はどこの家でも二日の朝の話題になりました。江戸時代には良い夢を見るために枕の下に入れて眠る宝船の絵が売り歩かれたといいますから、その頃は社会的な行事の一つだったのでしょう。

初夢で一般的によく云われているのに一富士、二鷹、三茄子があります。徳川家康がまだ駿府(静岡市)の城にいた頃、ある日三保に遊びに行きました。その時は四月だと云うのにもう茄子が実っていたので、これは珍しいから買って帰ろうと思い値段を聞いたらものすごく高いのでびっくりしました。そこで家康は『駿府で高いものは、富士山と愛鷹山だけかと思ったが茄子も高いものだ』と云ったのがはじまりだそうです。今でこそ真冬にナスがあっても不思議ではありませんが、ハウス園芸技術のない昔四月にナスが実っているというのは、いかにも気候温暖な三保地方ならではの話。

もっと一般的な話としては富士は霊山のうえ、日本で一番高い山だし鷹は大変強い鳥でめったに負けない、茄子は『成す』に通ずるから三つともめでたいものばかり、それを初夢に見ることは大変に縁起がいいという説。何となくこじつけてはおりますが、こういう話はあまり『せんさく』をすると、それこそ夢がなくなってしまいます。

門松

町内の風景をいっぺんにお正月らしくしてくれるのが門松、これがなくては改まった感じにならないから不思議です。最近門松を立てる家も次第に少なくなり、新生活運動とかで紙に印刷した門松が貼られたりして日本古来の伝統が失われつつあることは淋しい気がします。全体の七〇%以上が山である高知県では矢張り印刷の門松より本物の門松で昔からの、おごそかな正月気分を味わいたいものです。大豊町でも耕地がだんだんと荒らされておりますが、松を作って門松を売り出す計画をしたらどうでしょうか。クリスマスのモミの木もさることながら、日本人が昔から重んじてきた形式の美、正月になくてはならぬ風物詩を長く後世に伝えたいものです。

ところでこの門松、いつごろから始まったのでしょうか？　鴨長明と云う学者が編集した四季物語の中に『松竹を立てることは欽明天皇の御代より始まる』と書いてあるようですが、もっと後世の平安朝の末期から行われるようになった、という説もあります。

そもそもなぜ松と竹を立てるのか、昔は天皇がお出かけになる時、道路沿いのきたない所などがお目にとまらないよう生木の松や竹を一面に立てかけたと云われております。このような風習から新年の門前に飾るため松と竹を飾るようになったのではないかと云う説があります。

もっとも竹を束ねて立てる門松については一説があって、徳川家康が三方ケ原の合戦で敗れて浜松城に立てこもった時、たまたま正月を迎えました。浜松城には鉄砲の弾丸よけに孟宗竹がたくさん運び込まれておりましたが、その束に松の小枝を飾ったのが始まりでそれから竹の上部をやりのようにけずってとがらしたものが武家屋敷でもてはやされるようになり一般に広まったのだといいます。今ではデパートとか、大きな会社の玄関などでないと、そぎ竹の門松にはお目にかかれなくなりました。

成人になられた皆さんへ

権利とか義務の重みをいちばん身が引きしまるように感じるのは二十歳の誕生日だといわれます。

十五日は「成人の日」それを自他共に公認され確認する日でもあります。法律的には、すでに二十歳の誕生日に成人として認められているわけですから、この日は権利と共に責任の大きさをあらためてみずからに念を押す日でもありましょう。

もう未成年のような法律上の保護は一切とり去られて自分の責任と判断で行動することが要求されます。

せっかくの成人の日であり、成人式でありますので成人になられた方々はこの日を自分の責任と判断で行動する第一日目の日にしてはどうでしょうか。

成人式の服装は簡素に

従来からこの問題は色々と論議されてきましたが、年々「はで」になってきました。この日まで蝶よ花よと育てあげた両親の感激もひとしおのものがあり式場まで車で送ってこられる方もあります。菜っぱ服の父親が、車からおりる晴れ姿の我が娘に履き物を揃えて差し出す場面なども今までに見かけましたが、こうしたことが「親の心子知らず」になっては困ります。

成人式までに一生懸命働いて自力で、又は一部を親に手伝ってもらって晴れ着を新調する方もあるでしょうが不況と節約ムードの高まりで、人それぞれに考えてみるときが来たのではないでしょうか。

また着物がつくれないから成人式に出られないという考え方も勇気ある青年とは言えません。なにはともあれ、これが責任と判断で行動する第一歩となるのではないでしょうか。

時間を守ろう

最近、県内外の市町村では、個人的な理由(髪結いなど)で、成人式の時間におくれた場合は、式場に入れないというところもできているようです。一生に一度の成人式の時間におくれるようでは、将来、責任と自覚ある行動が期待出来ないからという愛情の厳しさからと思われますが、とにかく時間には絶対おくれないようにして下さい。そのことが責任と自覚と判断で行動することにつながるからです。

成績のよかった嶺北美術展

出品点数いまひと息

絵を書く会も育てよう

嶺北総合美術展(第七回)は、昨年十月三十日から十一月二十八日まで、当番の本山町をふり出しに嶺北五ケ町村を巡回して開かれた。

大豊町からは、洋画二点(日本画〇)、書道一九点、写真二〇点、彫塑工芸二点計四三点の出品があり書道の部で飯田和子さんの本阿弥切臨、西村浩一さんの般若心経が特選に、秋田一さんの黄雲、小笠原美和さんの四月廿三日臨が褒状に、また、五十一年度特選の石川多満恵さんの作品が推せんに、さらに笹岡由美、華岡トミ子、渡辺盛男、三谷和子、小笠原恒子、石原延、鍵山佳代、山中万石さんら九点の作品がそれぞれ入選した。洋画の部では釣井常徳さんの作品二点が入選、写真では、松下健一、笹研二、並川野生夫、浜田豊高、三谷雄一、川田敏彦、門脇一彦、岡山幸一さんらの出品した一〇点が入選、工芸では丁野しげ乃さんの作品二点が入選した。

出品点数四十三点のうち特選二点、褒状二点、入選二三点、計二七点、入選率六二・八%、書道だけの入選率では六八・四%と、かなり良い成績ではあったが町村別出品状況調では依然として、本山町や土佐町よりも低いのが現状。

五十三年度は、大豊が当番町でもあるのでより多くの出品を期待する。また『絵を書く会』(仮称)なども育ってほしいと文化推進協議会では願っている。

尚町村別出品状況は次の通り。

本山町八一点、土佐町七八点、大豊町四三点、本川村二八点、大川村七点、合計二三七点。

写真説明　(上)特選の般若心経西村浩一さん(中)褒状の小笠原美和さん(下)褒状の秋田一さん

三谷浩章君が最優秀賞

農業鑑定林業部門競技で

全国の農業高校から選ばれた五十人の代表選手をしり目に、大畑井の三谷浩章君(高知農業高校三年生)が第二十八回日本学校農業クラブ大会農業鑑定林業部門で最優秀賞を獲得した。

浩章君や家族のよろこびはもとよりだが、長い歴史を誇る県立高知農業高校や、大会の当番県としてもその面目をほどこしたと関係者はよろこんでいる。

県下の大会でも一年生の時に優秀、二年生で最優秀三年生で優秀という力の持ち主で、それだけに林業科教室での猛勉強をはじめとする本人の特訓と努力がこの成果を生んだ。将来は父(泰男氏)の家業を継ぐと云っているが、卒業したら測量技師として地場の土建会社へ就職が内定している模範高校生である。

間伐木の買取りについて

大豊町森林組合

町内山林の造林率は七五パーセントと推定されるまでになりましたがその山林の大半は今間伐期となっております。これ等の山林は植付する時点の計画では間伐収入も相当見込んでおりましたが社会情勢の変化等により間伐収入は殆どなくなりました。これがため間伐作業は進まずそのまま放置されている現状ですが間伐を行わないと折角育てた造林木も優良材は育たなくなります。

これが対策の一環として国におきましても本年度より間伐材安定流通促進パイロット事業が実施されることとなりました。

当組合もこの事業にのっとり間伐材(末口十二糎以下の丸太)を次の価格で買取り致します。

間伐を要する林分は適期に間伐し採算のとれる材は最寄の車道(二トン車以上)まで搬出して下されば当組合の定期集荷の要領で買取り致します。尚一三糎以上の材は一般価格で買取り致しますので宜敷御協力下さるよう御願いします。

価格表(昭五三、三、三一迄)

樹種	規格		当(円)	石当(円)
杉	直	四M3cm～12cm	二二、四四〇	五、九六〇
〃	〃	三M	一四、五八〇	四、〇五三
〃	〃	二M	八、一三〇	二、二六〇
松	〃	四M	二七、九三〇	七、七六五
〃	〃	三M3cm～10cm	一八、六二〇	五、一七六
〃	〃	三M11cm～12cm	二八、三〇〇	七、八六七
〃	〃	二M3cm～12cm	一一、六四〇	三、二三六
杉	小曲	四M3cm～12cm	一四、七七〇	四、一〇六
〃	〃	三M	一一、六六〇	三、二四一
〃	〃	二M	四、六〇〇	一、二七九

(註)この価格は当組合川口南貯木場着価格であり運賃を差引した額が現地買取価格です。

編集後記

◆明けましておめでとうございます。暮れからのさわがしさが、一晩を境にしてウソのような静かな朝を迎えます。

◆暦も新しくなりました。家々には門松が立てられ町内いたる所にしめ縄が張りめぐらされ、日の丸が寒風にはためく新年の朝、寒さのせいもありますが、何かしら心の引きしまる思いが致します。

◆昔一休さんが〝門松はめいどの旅の一里塚、めでたくもあり、めでたくもなし〟と和歌を作って、浮かれ騒ぐ世人への警告としましたが、ことしこそ、色々のことをじっくりと考えてみましょう。(中西)

"ゴミの分別収集は家庭で"

焼却炉で昨年11月に又怪我人が2人出ました。燃えるゴミ、燃えないゴミの区別は家庭で……。ゴミ袋には必ず名前を書いて、スプレーなど爆発性のものは絶対に入れないよう常に責任の所在を明らかにしましょう。

大豊町役場住民課
大豊町生活学校